



Japan Communication Association (JCA) Newsletter

日本コミュニケーション学会ニュースレター



CONTENTS

122
2019.11

巻頭言

研究に関して恩師や先輩たちから学んだこと

渉外担当理事 末田清子 (青山学院大学)

この度日本コミュニケーション学会 (以降 JCA) の渉外という役目を仰せつかった。これまで諸先生方が築いた JCA の礎を大切にして、国内のコミュニケーション関連の学会との連携、海外の学会との交流等を推進すべく、微力ながらお役に立ちたいと思う。渉外の仕事の第一歩として、私が研究に関して恩師や先輩たちから学んできたことを共有させて頂き、JCA に望むことを述べたい。

私はコミュニケーション学のなかでも、異文化コミュニケーションという領域に身をおき、経験的研究 (empirical research) を行ってきた。JCA に入会したのは 1992 年で、著名な諸先生方を前に、初めて学会発表させて頂いたときの緊張感は今でもよく覚えている。その頃の自分と今の自分を比べるとあまり成長していないように思うが、研究することに関して恩師や先輩たちから多くを学んできた。なかでもとくに大切だと思う 5 点を挙げたい。

まず 1 点目は、研究目的に合った手法を選ぶと同時に自分の目を養うことの大切さである。私が尊敬する研究者が、「チェーンソーで素材を大きく切ったほうがよいのか、その素材を細かく彫刻刀のようなもので削るのがよいのかは目的による。そして何よりも大事なのは道具の使い手だ」とかつて仰った。つまり、研究目的に合った手法を選び、使いこなし、そして最終的に研究者としての目を養い、直観と感性を大事にするということが重要である。直観と感性が自然科学においても大切であることはプロノフスキーも示唆している。

2 点目は、データ収集の際は自分の研究対象に可能な限り近づき、データ分析の際は、可能な限りデータから距離を置くことである。研究現場でときには感動的なエピソードを伺う。しかし、その感動は、緻密な分析と冷静な考察なくして新しい知となって実を結ばない。研究対象との距離の置き方は、経験的研究であっても理論研究であっても同じように大切ではないかと思う。

3 点目は、理論的感受性 (構成主義版グラウンデッドセオリーの代表的研究者であるシャーマズ氏が述べる) を養うことである。現場でデータを収集するときは、先入観や、特定の理論的枠組みに固執しないほうがよいとされる。しかし、研究者がどの理論ももたずに現場に入ることは難しい。また、データを分析するには、その枠組みとなる理論を適宜使えるようなレパートリーの広さが求められる。

4 点目は、新しい発想や着想のために、ときには学会内外の異領域の研究動向をみることである。例えば、コミュニケーション学では、システム論的視点を採り入れてコミュニケーション事象を研究してきた。自分の頭を開放的なシステムにして、外界からも刺激をたくさん採り入れることが、新しい知見へとつながる可能性がある。

最後の点は、文化固有あるいは内側の視点 (emic) と、より「普遍的」 (何が普遍的であるかは難しいとは思いますが) あるいは外側の視点 (etic) との間を往来することの大切さである。たとえば、私の研究テーマの一つにフェイスとコミュニケーションがある。日本のコンテキストで面子という概念や経験から得た知見を、

フェイスというより普遍的なコンテキストにフィードバックし、emic と etic を行き来することで、フェイス研究を前進させることができると思われる。

以上が研究について私が恩師や先輩たちから学んだことである。JCA はコミュニケーションという冠がついた数少ない学会であり、網羅するジャンルも多岐に亘る。JCA 内で異なるジャンル内でのコミュニケーションを一層活発にし、多くの学びを得ていきたい。そしてそれを海外にも発信し、交流する機会をつくることができればと思う。

第49回年次大会報告

大会実行委員長 松本健太郎（二松學舎大学）

2019年6月8日および9日の両日、東京九段の二松學舎大学で第49回大会が開催されました。2日間あわせて会員72名、非会員111名と、合計で183名の来場者があり、それぞれの会場において活気にみちた議論が展開されました。私としても大会を成功裡に終えられたことを非常にうれしく思っておりますし、また、大会運営にご尽力いただいた理事の皆様、大会実行委員の皆様、そしてご来場いただいた会員の皆様にあらためて深謝申し上げます。



今回の大会は「都市とコミュニケーション」というテーマを掲げて開催されましたが、初日の8日にはメディア研究・ツーリズム研究をご専門とする山口誠先生（獨協大学）をお招きし、「レイトツーリズム（＝後期観光）」を鍵語として、また、観光的な視座にもとづいて、「都市、メディア、コミュニケーション」についてお話いただきました。

昨今、各所の観光スポットを背にして、観光客が自らの姿を撮影し、それをさらにソーシャルメディアにアップロードし、その画像データを他者と空間を越えて共有するという、「自撮り」とも「セルフイ」とも呼ばれるコミュニケーション行為が話題にのぼることがあります。山口氏は旅や観光をめぐる想像力の歴史の変容をわかりやすく解説されたうえで、観光客たちによるそのパフォーマンスの現代的な意味をきわめて魅力的なかたちで提示されました。そしてそのご視点は、いま私たちが生きるコミュニケーション文化の組成を把握するうえで、とても示唆に富んだものだった、ともいえるでしょう。さらにその後設定されたシンポジウム「都市とコミュニケーション」では、関東支部長でもいらっしゃる小西卓三先生の司会のもとで、藤巻光浩、日高勝之にパネリストとしてご登壇いただき、活発な討議が展開されました。

2日目の朝から学術局セッションとして行われた「日本のコミュニケーション研究はどこに行くのか？——日本コミュニケーション学会創立50周年（2020）に向けて」もまた、コミュニケーション研究ならびにコミュニケーション学会の未来を構想するうえで、非常に意義深いものになりました。高井二郎会長の司会のもとで、山口生史先生、宮崎新先生、松島綾先生、桜木俊之先生、石黒武人先生にパネリストとしてご登壇いただき、それぞれの視角からコミュニケーション研究のあり方についてご提言いただきました。またそれ以外の、パネルや研究発表、特別講演や日米交歓ディベート、ひいては懇親会に至るまで、さまざまな場をつうじて充実した議論が展開されたことを、実行委員会を代表して大変うれしく思っております。

次回の第50回年次大会は、記念すべき周年行事として、やはり同じく東京都内の立教大学で開催される予定となっており、例年以上に多くの来場者がいらっしゃることを期待されます。私もひきつづき、副学術局長（年次大会担当）として大会プログラムの策定かわかりませんが、会員の皆様にとって次回大会が意義のあるものになるよう、最大限の努力を惜しまないつもりです。今後ともご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。



2019年度 第1回理事会報告

日 時：2019年6月7日(金) 14時～18時30分

会 場：二松學舎大学 九段キャンパス1号館 8階801教室

【会長挨拶】

本日はお忙しい中、学会のためにご尽力ありがとうございます。会場校となる二松學舎大学は場所も施設もすばらしく、また、大会実行委員長の松本健太郎先生のご尽力にも感謝いたします。大会の2日間どうぞよろしくお願いいたします。

【報告事項】

【1】 第49回年次大会

1. 学術局(山口)

-副題を含めてタイトルは以下となる。「観光、メディア、コミュニケーション：後期観光とレガシー化する社会」

2. 会場担当(松本)

明日からの年次大会に向けて順調に準備が進んでいる。

【2】 各局および担当理事報告

1. 事務局

(1) 入退会者および会費納入報告(高永・菅家)

-会員全体数が以下の通り報告された。(一般会員 348名、学生会員 12名 準会員 1名 合計361名)

-新規入退会者の確認が行われた。

2. 学術局

(1) ジャーナル関連(山口)

以下のジャーナル関連の報告があった。

-『日本コミュニケーション研究』第47巻 第2号 発行(2019年5月31日発行された。

-『日本コミュニケーション研究』第48巻 第1号が11月30日に発行予定。審査状況について、投稿論文5本(再投稿1本含む)が初回査読の結果、掲載決定0本、修正後掲載の可能性のあるもの2本、掲載を不可としたもの3本となる。第47巻 第2号に投稿されたもので、今回掲載可とされたものが3本。

-『日本コミュニケーション研究』第48巻 第2号 投稿論文募集締め切りを2019年7月31日とする。

(2) 学会賞関連(山口)

-本年度の受賞

論文の部で学会賞と奨励賞各1名選考されている。著書の部は該当なし。

(3) 年次大会関連

-年次大会の「学術講演」の名称は今後、「基調講演」という名称に統一されることが決まった。

-次年度大会開催校について(高井)

高井会長より、次年度大会開催校の予定が報告された。

3. 広報局

(1) ニュースレター121号の発行と122号の予定

ニュースレター121号を発行した。次号は、8月下旬に原稿依頼し、9月初旬に原稿締め切りの予定である。コラム「コミュニケーション教育」、「書評／教科書紹介」のご寄稿、寄稿者の推薦をお願いしたい。

(2) 第49回年次大会の広告・ブース出展企業について(小山)

年次大会プログラムの広告企業はプログラムの通り3社(有斐閣、ナカニシヤ出版、ひつじ書房)。展示企業(ひつじ書房、三修社)。

(3) Web 関連

-年次大会の広報	4/16: 事前申し込みサイトを掲載
	5/22: チラシとプログラムを掲載
-ニュースレター	5/29: JCA ニュースレター最新号(121号)を掲載
-学会誌	3/5: 第48巻2号の論文投稿案内を掲載
-その他	異文化間教育学会第40回大会についてなど、随時掲載

(4) HP 刷新について

HP デザインの報告があった。

(5) 他学会への年次大会案内送付について

大会チラシの完成後に以下の学会へ年次大会案内をメールにて配信した。

異文化教育学会、多文化関係学会、日本マス・コミュニケーション学会、表象文化論学会、国際ビジネスコミュニケーション学会、映画英語教育学会、外国語教育メディア学会、大学英語教育学会、日本ディベート協会、SIETAR JAPAN、日本語用論学会、全国高校英語ディベート連盟

【3】 各支部報告

各支部報告を参照

【4】 各理事からの報告

1. 50周年記念担当理事(宮原)

-コミュニケーション(概論・入門)の出版を構想中

大学で使う以外(企業、生涯学習、OJT等を含む)を視野に入れたり、年次大会の発表と関連させたりしてはどうかとといった意見があり、それらを参考に進めていくことになった。

-50周年記念大会では他学会との連携を進めたい。ICAとの連携については時期的なずれなどもあるため、他学会との連携を中心に考えていきたい。

【5】 その他

1. 研究会費についての確認事項(松島)

-基本的に1研究会1万円の支給となる点、研究会費を使い登壇依頼を行う場合、事前に理事会で審議をするという点が確認された。

2. 学会の方向性について

五島理事より、一般向けに簡易な表現による執筆や、大会等でより社会と連携した内容のパネルやセッション等を持つことが提言された。また、高井会長より、年次大会のテーマを設定する際に、学会としてその対象どこに向けるか(コミュニケーションなのか、他分野・領域なのか)を考える必要性が述べられた。

3. 議事録について(高永)

-事務局がより厳密な議事録を作成していくことが報告された。

【審議事項】

【1】 第49回年次大会関係

1. 学術局

学術講演の注意事項とジャーナル掲載の予定について確認された。

【2】 各局関係

1. 事務局

(1) 2018年度決算、2019年度予算審議

総会での審議内容が決定された。

(2) マイページと入会申込み、専門分野について

マイページの会員情報の公開設定について、原則として、自宅情報を非公開、所属情報を公開する方針が決まった。

-マイページ上の専門分野と研究テーマの設定について

専門分野(リスト項目+フリーワード)と研究テーマ(フリーワード)という枠組みで作成することが決まった。また、リスト項目の順序の方針が決まった。

専門分野のリスト項目は以下の通り。

社会言語学	ヘルス(医療)コミュニケーション
言語心理学	家族コミュニケーション
言語人類学	ビジネス・コミュニケーション
カルチュラル・スタディーズ	コミュニケーション理論
メディア・スタディーズ	メディアエータッド・コミュニケーション
エンターテインメント	レトリカル・コミュニケーション
表象文化論	パブリック・スピーチコミュニケーション
地域研究	コミュニケーション・テクノロジー
人種・エスニシティ	言語コミュニケーション
外国語教育	非言語コミュニケーション
日本語教育	視覚コミュニケーション
対人コミュニケーション	ジェンダー・コミュニケーション
集団コミュニケーション	コミュニケーション教育
集団間コミュニケーション	電子・デジタルメディア
組織コミュニケーション	司法コミュニケーション
マス・コミュニケーション	パフォーマンス学
国際・政治コミュニケーション	ジャーナリズム
異文化コミュニケーション	コミュニケーション哲学
パブリック・リレーションズ	コミュニケーション史
マーケティング・コミュニケーション	応用コミュニケーション
クライシス・コミュニケーション	コミュニケーション障がい
リスク・コミュニケーション	

(3) 学術局増員について

-学術局理事(将来構想担当)の増員について審議され増員が決まった。

学術局の仕事量、仕事分担、情報共有などについて、その状況や問題点などが話しあわれ、審議の結果、副学術局長(将来構想担当)として小西卓三先生の理事就任が決まった。年次大会運営など、年度を越えた、長期的な準備の必要性に対応するために、将来構想担当理事をおくこととなった。

(4) 理事会開催日程の変更について

-これまで12月に開催されていた第2回理事会を、年次大会の開催準備や議事録の作成の流れを考慮し、10月に開催することが審議の結果決まった。

2. 学術局

(1) 学会賞関連 特になし。

(2) 室蘭工業大学からの「学術資源アーカイブ」での公開許可依頼と同様事案の今後の対応について学術局の方針が確認された。

(3) 大会準備における一部の部局間役割分担について 役割分担について確認がされた。

(4) 「コミュニケーション理論研究会」設立について 設立の主旨と活動方針が報告され、設立が承認された。

3. 広報局

(1) Web 関連

HPの改修について

新ドメイン名の候補が報告され、審議の結果、jca1971.com、jca1971.org、jcahdq.orgの順で開設可能かを調べ、作業を進めることになった。また、新サーバーの選定は広報局が行うことが決まった。

【3】 次回理事会開催日時・会場

日時：10月12日（土曜日）13時～17時

会場：関西大学東京センター

第 49 回年次大会 総会報告

日 時 : 2019 年 6 月 8 日 (土) 14 時 30 分～15 時 15 分

【全体会議】

1. 総合司会の高永事務局長より、総会の開始が宣言された。高井次郎会長より挨拶がされ、参加者への歓迎の言葉とともに、二松學舎大学と実行委員長の松本健太郎先生への感謝が述べられた。
2. 大会実行委員長挨拶として、二松學舎大学の松本健太郎先生が参加者への感謝を述べ、学術講演をされる獨協大学の山口誠先生の紹介を行った。また、大会の注意事項と懇親会について説明された。
3. 学会賞として、論文の部、松島綾先生（立命館大学）「認識可能性の描線——『狂気の歴史』の読みを通したレトリック再考」が紹介され、高井会長より賞が贈呈された。また、奨励賞、論文の部として、菅野遼先生（立教大学）「修辞学的人类学的機械——1964-1965 年万国博覧会とアンドロイド・リンカーン」が紹介され、高井会長より賞が贈呈された。
4. 第 48 回大会実行委員長、北海道医療大学の長谷川聡先生（北海道支部長の佐々木智之先生が代理出席）に高井会長より感謝状が授与された。
5. 高永事務局長より、会員限定の総会を開催する旨が説明された。

【会員限定の総会】

6. 総合司会の高永事務局長より、会員向け総会の開始が宣言された。
7. 島田拓司先生が議長に推薦され、拍手で承認された。
8. 島田拓司議長により、会則 38 条では、「会員総数の 5 分の 1 以上の出席」が議決の条件であることが確認された。それに基づき、現時点における会員数 361 名の内、総会出席者 42 名、委任状 55 通の合計 97 名（会員数 $361 \div 5 = 72.2$ 名）で、総会が成立したことが確認された。また、菅家知洋副事務局長の書記就任が、拍手で承認された。
9. 高井会長より、理事会より選出され、会長が承認した 2019 年度の役員人事が発表された。今回の改選は、副学術局長（年次大会担当）松本健太郎先生、副学術局長（将来構想担当）小西卓三先生、理事（九州支部長）吉武正樹先生となる。続いて、理事会より監事として選出された藤巻光浩先生（フェリス女学院大学）と丸山真純先生（長崎大学）が、拍手で承認された。
10. 高井次郎会長より、2018 年度事業報告として、ホームページの改修を行ってきたこと、50 周年に向けた構想を探ってきた点が報告された。2019 年度の事業計画として、引き続き 50 周年に向けての行事の計画が急務であり、50 回目の年次大会は他学会との連携を視野に入れるほか、国際大会にすることも検討中であることが報告された。また、会員数を増やすための施策を理事の間で検討していることと、活動費の増額や支部での活動を支援できるよう努力していきたい旨が報告された。
11. 新ホームページを作成中であることが報告された。この改修作業で、より親しみやすく使いやすい HP になるよう作業を進めている。また、国際文献社が提供するマイページの機能を利用し、HP から登録情報の確認や更新、会員検索などが行えるように準備している旨が報告された。
12. 高永事務局長より、2019 年度の業務委託契約について説明があった。「算定基準書」の説明のあと、以下の国際文献社へ委託する業務の内容が説明された。
 1. 会員管理、会費請求・受付
 2. 会計業務
 3. ジャーナル印刷・発送（年 2 回）
 4. J-STAGE 対応

5. 大会関連業務

- ・事前参加システム
- ・参加証等の作成
- ・プログラム・プロシーディングス印刷・発送
- ・ちらしデザイン・印刷・発送
- ・事前参加費管理

13. 松島副事務局長より、2018年度決算報告として、以下が示された。

1) 収入の部

- ・年会費：一般会員 339名、学生会員 11名、準会員 1名の年会費の収入あった。
- ・年次大会 大会参加費：59名の参加費 (会員：199,500円、非会員：50,000円)
広告費：40,000円
- ・ジャーナルの売り上げは7つの図書館へ送付しているもの。
- ・合計で4,118,770円の収入があった。

2) 支出の部

- ・ジャーナル第46巻2号と第47巻1号をそれぞれ500部ずつ発行し、それに伴う送料も発生した。
- ・ホームページのリニューアルのための着手金が発生し、今年度も継続して作業するための費用は、予算に組み込んでいる。
- ・昨年のプロシーディングス費と、それに伴う送料も発生した。
- ・その他、大きな変化はなく、支部活動として、北海道、東北、中部、中国、四国、九州へ支部活動助成金、北海道、中部、中国、四国、九州へ支部大会助成金を出している。ここに記載のない支部も助成金を使わずに活動をしている。

鳥越監事より、丸山監事との厳正な監査の結果、適正な会計処理が行われていることが報告された。

上記の内容が、拍手で承認された。

14. 松島副事務局長より 2019年度予算案として以下の点が示された。

1) 収入の部

- ・年会費：約360人の会員のうち300人(80%強)からの収入を見込んでいる。
- ・年次大会 参加費と懇親会費：Webからの申込みと支払いをした方だけの計上となっている。当日申込み・支払いは含んでいないので金額はすこし上がる見込みとなる。
弁当代： 今年ゼロとなる。
広告費： 20,000円、 展示企業(2社) 15,000円、合計 35,000円
助成金： 二松學舎大学より補助金 50,000円
- ・ジャーナル売り上げ：昨年同様21,000円の見込みとなる。
- ・合計： 3,795,869円の収入の見込みとなる。

2) 支出の部

- ・印刷費：会員数に合わせて、ジャーナルを500部から400部の印刷に減らし、800,000円の見積もりとなる。
- ・ホームページリニューアル関係費：手付け金の差額を250,000円見込んでいる。
- ・プロシーディングス費、総会のはがき作成費、年次大会費は昨年の数字をそのまま入れている。
- ・運営委員弁当代：大会1日分から2日分へと増額になっている。
- ・理事交通費：ゼロとする。ジャーナルや年次大会の支出が高めとなるため、会員を獲得しつつ若手を育てる理事の立場から交通費をゼロとする。
- ・支部大会助成金：据え置きで、一支部30,000円。
- ・支部活動助成金：少し減額となる。繰越金が多いなどが理由。

上記の内容が、拍手で承認された。

15. 山口学術局長より、次年度の年次大会の会場について、50周年大会となり、関東の大学において6月中の開催に向けて現在申請をしているという報告があった。
16. 島田議長から議事の終了が宣言された。
17. 総合司会の高永事務局長より、総会終了が宣言された。

学術局報告

2019 年度学会賞報告

学会賞 論文の部

松島 綾著「認識可能性の描線：『狂気の歴史』の読みを通じたレトリック再考」（『日本コミュニケーション研究』第47巻2号掲載）

本稿は、フーコーの『狂気の歴史』の第一部第二章の「大いなる閉じ込め」を再読することで、ビーセッカーによって論じられた「意味をなす線」、すなわち「認識可能性の描線 (lines of intelligibility)」について明らかにしていくことを意図した論文です。著者によれば、ビーセッカーは、知の条件として特定の認識を可能にし、差異を範疇として確立する表象関係内にフーコーが見出した権力をレトリックの問題として看破すると共に、権力を歴史的に変化する表象関係の内部に見出し、特定の知のあり方が認識を可能とする表象関係に組み込まれる配置を「認識可能性の描線」として論じたものの、ビーセッカー自身はこの概念について十分に明らかにしなかったとされています。それに対し、この論文は、認識の体系やその変化、狂気や生産的な権力を軸に、「認識可能性の描線」について論じることを通して、フーコーを中心に批判的レトリック研究の使命の新たな側面を提示した研究論文であり、批判的レトリックが明らかにすべき課題を論じている点で高く評価されました。また、過去の年次大会で開催されたパネル・セッションにおいて発表した内容に加筆・修正を加えた論考であるということから、本学会での活動が研究活動に活かされている点でも評価できると判断されました。

以上の点を全て勘案し、本論文を論文の部の学会賞として高く評します。

奨励賞 論文の部

菅野 遼著「修辞学的人类学的機械：1964-1965年万国博覧会と アンドロイド・リンカーン」（『日本コミュニケーション研究』第47巻2号掲載）

本稿は、修辞学における歴史研究の新たな可能性を模索するために、「修辞学の文化的物質化」と「物質性の修辞的文化」との隙間に潜む、ひとつの「可能かもしれない」理論的視点のあり方を方向付けることを意図したものです。著者は、物質・修辞・文化という3項によって構成される境界線上の隙間や襞を観察し、修辞学と唯物論の系譜学を再び想像し、修辞学の魂 (anima) やその活性化 (animation) について考察するために、修辞学的人类学的機械としてのアンドロイド・リンカーンを分析しました。アンドロイド・リンカーンとは、1964年万博に展示された、ウォルト・ディズニーによって製作された雄弁の自動人形機械です。修辞学と唯物論の関係性、特に「新しい唯物論 (New Materialism)」と呼ばれる新領域の理論的意義に着目しつつ、「修辞学の他でもありえた系譜学の可能性」を模索した本稿は、このアンドロイド・リンカーンが、McGee(1982) から現在に至るレトリック・レトリシティとマテリアリティ・マテリアリズムに関する英語圏のコミュニケーション研究者の間での議論の方向転換を示唆することを論じた堅実な論文であり、コミュニケーション研究の貢献に寄与する、重要な課題を扱った論文であると評価されました。また、

過去の年次大会で行った口頭発表に対して加筆・修正を加えた論考であるということから、本学会での活動が研究活動に活かされている点でも評価できます。

以上の点を総合的に勘案して、本論文は奨励賞（論文の部）に相応しいと評しました。

なお、今回は書籍の部については応募がなかったため、学会賞・奨励賞共に該当なしとなりました。

ジャーナル投稿について

5月に『日本コミュニケーション研究』第47巻第2号が無事発行されました。現在は、第48巻第1号の準備が進められており、11月末には発行予定となっています。また、第48巻第2号の締め切りが7月末に終了し、こちらは2020年5月末の発行を目指しております。

現在は、第49巻1号への投稿論文を募集中です。締め切りは2か月後の2020年1月末日です。是非皆様の研究結果を論文としてご投稿ください。投稿の際には、ワード等で作成された電子ファイルを添付ファイルとして指定メールアドレスに送付してください。投稿論文送付の際には、(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)「ファイル作成に使用した機種を加えた著者情報」、の3つのファイルを添付してください。執筆・投稿の詳細は、公式ホームページにある「研究論文集投稿規程」「学会誌執筆要項」をご参照ください。

投稿される際には、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも「CC:」にて送付をお願い致します。メールアドレスは以下の通りです。

To: journal[@を入れる]caj1971.com

CC: ohashiri[@を入れる]ouj.ac.jp

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、ジャーナル担当の大橋 ([ohashiri\[@を入れる\]ouj.ac.jp](mailto:ohashiri[@を入れる]ouj.ac.jp)) までご連絡ください。可及的速やかに対応致します。

年次大会と共に学会の顔と言われるジャーナルですが、日本コミュニケーション学会のジャーナルの在り方としてどのような形が相応しいのか、今後少し時間をかけて検討していこうと考えています。世間では「働き方改革」が叫ばれる一方、コミュニケーション学の研究を牽引していく立場である教員がますます忙しくなっている中で、どのように質の高い投稿数を確保していくかがより大きな課題となってきました。

学会員の方・非学会員の方共に、是非これからも積極的な投稿をお願い申し上げます。

(副学術局長:ジャーナル担当 大橋理枝)

第50回年次大会 発表論文・企画セッション募集

来年度2020年に開催される第50回年次大会の発表論文・企画セッションを募集いたします。以下をご参照のうえ、ふるってご応募ください。

【大会開催要項】

- 日程 2020年6月6日(土)・7日(日)[予定]
- 場所 立教大学池袋キャンパス[予定]
- テーマ 「コミュニケーション学の^ア現在地/^ナ現在知

【募集内容】

- 応募締切(発表・企画申し込み原稿ファイル提出締切) 2019年2月1日
- 応募・問合せ先 副学術局長 松本健太郎(大会担当、二松学舎大学)
MAIL: k-matsum[@を入れる]nishogakusha-u.ac.jp
- 募集①「研究発表」: 質疑応答を含む30分程度の、論文発表を前提としたいいわゆる研究発表です。
- 募集②「企画セッション」: 会員相互の研鑽や情報交換を目的とした90分程度の自由企画です。形式はパネルディスカッション、ワークショップ、統一テーマの論文発表、模擬講義など。その他の企画案も可能ですので、学術局にご相談ください。
- 応募方法
 - ①発表・企画申し込み(プログラム掲載要旨申し込み)
 - ※メール件名に「JCA 大会申込」と記してください。
 - ※メール本文に「研究発表/企画セッションの別、演題/企画名、発表者の氏名・所属を記してください。
 - ※プログラム掲載用要旨原稿ファイルを添付してください。ファイル形式は自由です。要旨は和文・英文が必要です。要旨にも演題名、発表者氏名・所属を入れてください。
 - ※本文字数は和文800字以内、英文300語以内です。
 - ②発表原稿提出(プロシーディングス掲載要旨送付)
 - ※プロシーディングス掲載要旨を2月1日までにメール添付ファイルで送付してください。
 - ※プロシーディングス掲載要旨は和文・英文が必要です。企画名・発表者氏名と所属も入れてください。字数は和文3000字以内、英文1000語以内(脚注含む)で、いずれもA4版縦置・横書で見開き2頁に収まる分量を目安にしてください。
- ※締め切り後、学術局で検討して発表・企画の採否をできるだけ速やかにお知らせします(おおむね 7~10日)。
- その他 個人発表は会員限定。グループ発表は筆頭者および発表者が会員限定です。非会員の発表希望者は 応募時までに入会手続きを済ませてください。

事務局報告

事務局からのご報告とお願い

1. 会費納入のお願い

年会費の振込用紙を7月中旬にお送りしました。未納の方はお早めにお振込みくださいますようお願い申し上げます。

2. 学生会員・準会員登録申請締め切り

大学院生対象の学生会員、学部生対象の準会員としての登録は7月末日をもって締め切りしました。前年度学生会員または準会員であった方で、新たに登録をされなかった方は自動的に一般会員に切り替えますのでご了承ください。なお、すでに今年度の学生会員または準会員の会費を振り込み済みで登録をされなかった方には差額を請求させていただきます。

3. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には、速やかに日本コミュニケーション学会事務局（以下「学会事務局」とする）までメール、郵送、ファックスのいずれかの方法でご連絡ください。年会費の振込用紙での変更届けはできませんのでご了承ください。

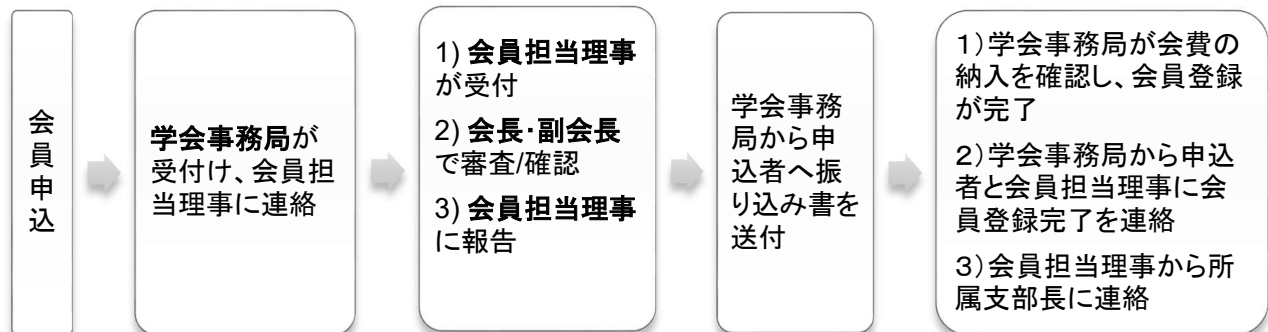
4. ジャーナルバックナンバー、記念図書の購入申込みと閲覧・複写申込み

これまで発行されたジャーナルバックナンバーなど学会発刊物を購入されたい場合は、学会事務局にお問い合わせください。また、科学技術情報発信・流通総合システムJ-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/>) あるいは国立情報学研究所の論文情報ナビゲータCiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) にも論文が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せずに複写をご希望の場合は、学会事務局までお問い合わせください。

5. 新規会員の手続き

JCAでは、新しい会員を随時受け付けています。次頁のような流れで、新規会員の手続きを行います。ご不明な点がありましたら、学会事務局までご連絡ください。

皆様のご協力をお願い申し上げます。



広報局便り

1. 第49回年次大会の広報局活動

第48回年次大会ではプログラム広告に多くの企業からご協力をいただくことができました（プログラムの広告：ひつじ書房、ナカニシヤ出版、有斐閣、朝倉書店、大修館書店、くろしお出版）。厚く御礼申し上げます。

広報局では、次年度の大会にむけて、引き続き努力を続けます。皆様も、ご紹介いただける企業がございましたら、ぜひ広報局にご推薦・ご連絡をください。

2. 各支部の年次大会等

支部ニュースに詳しい予定が掲載されておりますので、そちらをご一読ください。

3. 広報局からのお知らせ

- ① 事務局と連携して、2019年度を目処にHP掲載コンテンツの拡充ならびにレイアウトの見直しを計画しています。
- ② 現在、全国版のMLの構築を計画しております。本NL20頁のご案内を参照いただき、メールアドレスの登録（または更新）をお願いいたします。
- ③ 広報局では他学会の情報や教員公募情報なども積極的にアップしていくことにしております。現在も、いくつかの研究学会の年次大会案内や教員公募などの情報をアップしています。ぜひ、ご活用ください。
- ④ 皆様からも、国内だけでなく、海外の学会を含めて関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報下さい。HPにアップロードしたいと思います。
- ⑤ ホームページ (<http://www.caj1971.com>) は、適宜更新しております。ご意見やご質問を頂ければ幸甚です。

（広報局長 小山 哲春）

JCA ニュースレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニュースレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。今回は、フェリス女学院大学の藤巻光浩先生に書評をご投稿いただきました。藤巻先生、どうもありがとうございます。他の皆さまも、以下の要領で奮ってご寄稿ください。

① 著書紹介

会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介ください。和文で 250～500 字程度の原稿を受け付けております。

② コラム：コミュニケーション教育

コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。

③ 書評 / 教科書（テキスト）紹介

コミュニケーションおよび関連領域の著書に関する書評、および、コミュニケーション関連の教科書（テキスト）等の紹介を受け付けております。和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。

④ NL 表紙の写真

ニュースレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会の NL 表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せください。（写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または著作権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮ください。）

支部ニュース

東北支部

(支部長 関 久美子)

前号のニューズレターでは、第20回東北支部研究大会を岩手県内で開催する予定とお伝えしておりましたが、この度 JACET 東北支部と合同で11月24日(日)13時より、TKP 仙台西口ビジネスセンター(宮城県仙台市青葉区本町1-5-31 シエロ仙台ビル 2F・3F・6F)にて大会を開催する運びとなりました。

発表は JACET 東北支部から2本、本支部から2本を予定しております。第20回という節目の大会が、双方の分野の知を共有し互いの研究に繋げていくための貴重な機会となることと期待しております。一般参加ご希望の方は「氏名・所属」をメールにて kseki [@ を入れる] n-seiryu.ac.jp (関) までお送りください。追って大会の詳細をお送りいたします。締切は11月21日(木)とさせていただきます。参加費は無料となっております。ぜひ全国の会員の皆さまのご参加をお待ちしております。

中部支部

(支部長 森泉 哲)

今年度第1回研究会を2019年9月21日(土)愛知淑徳大学を会場として行いました。9月の研究会は、会員の自己研鑽の場として位置づけており、中部支部メンバーを中心に執筆し、ひつじ書房から2019年3月に出版した『グローバル社会のコミュニケーション学入門』についての合評会を行いました。ひつじ書房編集者の森脇氏から昨今の出版事情や編集者としての思いなどをお聞きし、その後執筆者8名からそれぞれ実践例、使用感、担当章への思い、今後の抱負などを語り、お互いの章についての質問やコメントをしながら、フロアの方々と本書について批評しあいました。今後社会の進展とともにアップデートしなければならないという意見や多くの方々に読んでもらうためには、教師用マニュアルなどを整備したほ

うがよいなど、活発な意見交換がなされました。合評会の後は、書評セッションを行い、各自お勧めの本について紹介しあい、コミュニケーション学の間口の広さとともに近接研究領域の知見など大いに学ぶことができました。

今回の研究会でも大学生の参加もあったほか、初参加の支部会員の先生もおられ、参加人数は10数名でしたが、非常に内容が濃く、未来につながる研究会となりました。参加者の学生さんや先生にとっても、満足感の高い研究会になったのではないかと思います。参加して下さりました方々、特に遠方からお越しいただいた先生方にこの場を借りてお礼を申し上げます。

次回の研究会(支部大会)は2020年3月に開催予定で、現在計画中です。日程など詳細が決まりましたら、またお知らせいたします。ぜひ皆様の参加をお待ちしております。

関西支部

(支部長 守崎 誠一)

前回のニューズレターでもお知らせいたしましたが、2019年度の関西支部大会を2019年11月30日(土曜)に開催する予定となっております。詳細については、いまだ未定となっておりますが、講演ならびに個人研究発表を予定しております。詳細が決まり次第、適宜メーリングリストや支部ホームページを通してお知らせいたします。



中国・四国支部

(支部長 脇 忠幸)

中国四国支部では、第22回支部大会を下記の通り開催いたします。

日時：2019年11月23日（土：祝）、13:00開始

場所：福山大学 宮地茂記念館（福山駅北口を出てすぐ）

全体テーマ：コミュニケーション教育・研究と地域

シンポジウム

：テーマ…コミュニケーション教育・研究と地域

：登壇者…高永茂（広島大学）、谷口直隆（広島修道大学）、脇忠幸（福山大学）

参加費：無料

前回（第21回）から「地域」をテーマの中核に据え、新たな試みとしてシンポジウムを企画いたしました。今回も引き続き、「地域」が抱える問題（社会問題や「地域」概念そのものの問題など）を「コミュニケーション」と接続させながら考えます。

なお、今大会における詳しい案内を含むJCA 中国四国支部ニュースレターを後日発行予定です。最近の支部大会については、Rudolf Reinelt 先生 HP(<http://web.icc.chime-u.ac.jp/reinelt/katudouhoukokuProcConfPapComps3.html>) に掲載されています。ぜひご覧ください。



九州支部

(支部長 吉武 正樹)

回ってもまだ数年先と書いていましたが、今年度より

支部長となりました福岡教育大学の吉武です。前支部長の池田理知子先生のように立派に務められるかはなはだ疑問ですが、支部および学会に寄与できるよう努力します（すでに、池田先生や事務局長の横溝彰彦先生にお世話になりっぱなしですが）。

さて、九州支部では、来る11月2日（土）に第26回支部大会を開催します。会場は福岡女学院大学で、実行委員長は池田理知子先生です。大会テーマは「メディア・コミュニケーション～ローカル・メディアの役割～」で、熊本日日新聞社の高峰武様に「井の深さを知る～ローカル・メディアの役割～」と題した基調講演を賜ります。その後に予定されているパネルディスカッション「メディア・コミュニケーション～ローカル・メディアの役割～」では、国際基督教大学の青沼智先生にもご登壇いただく予定です。詳しくは九州支部ホームページに掲載していますので、ご覧ください（そして、ぜひご参加ください！）。

もう一つ、九州支部の「売り」でもある、支部紀要『九州コミュニケーション研究』の第17号が発行されました。こちら九州支部ホームページで閲覧が可能です。この度副支部長をお引き受けいただいた平野順也先生には、編集委員長として引き続き第17巻の発行までご尽力いただきました。私も長らく編集委員長を務めましたが、支部紀要はまさに「手作り」の作業で、手間がかかります。ありがたい限りです。今回、内容も非常に充実しており、特別企画2つ（「社会、記憶、コミュニケーション学」および「パネルディスカッション：別府市における多文化共生社会への道のり」）を含む、計10本の論稿が掲載されています。どれも熱のこもった論稿ですので、ぜひともお読みください。

次号では、支部大会の様子をご報告できればと思っています。

編集後記

今回のニュースレターから、一か月ずつ発行時期を遅らせて11月、3月、そして7月の発行になります。年次大会や理事会の時期にあわせた発行です。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

広報局 ニュースレター担当 田島慎朗